

おじいさんのお米

石巻市立石巻小学校 4年 濱 名 凜 音

私は宮城県の石巻という所に住んでいます。おばあさん、お父さん、お母さん、妹の5人家族です。宮城にはおいしいお米がたくさんあり、中でも“ひとめぼれ”というお米は甘くてもちもちで家族みんなが大好きです。

ただ、私の家では群馬県で作られた“ひとめぼれ”も食べることができます。なぜかというと、おじいさんが群馬県に住んでいて米作りをしているからです。

元々私のお父さんが群馬生まれ、お母さんが宮城生まれです。結婚して私が生まれてからは宮城に住んでいるそうです。群馬のおじいさんは宮城と縁ができて、わかめやさんまなどのおいしさにびっくりしたそうです。その中でもお米のおいしさに感動して、ひとめぼれの苗を分けてもらい群馬の田んぼで育てているのだそうです。私はおじいさんが宮城を好きとってくれて嬉しく思いました。

私と妹はおじいさんの田んぼに行くのが楽しみで楽しみでしかたありません。着いたら荷物をおいてすぐに

「おじいさん、田んぼに行こう！」

が私と妹のいつもの合言葉です。

今年も7月に行ってきました。いつもの白い軽トラックにのって着いた田んぼは緑色と黄緑色が奥まで広がって、苗はもう妹のひざ位まで伸びていました。待ちきれなくて田んぼに入るとかえるやバッターもはねていました。田んぼに着くとおじいさんは必ずまわりにある板をずらして水を流します。米作りは水がとても大事だと教えてくれました。おじいさんの家がある倉渕町という所は川の水がとうめいで澄んでいます。山女や岩魚という川魚もたくさんいて、それは水がきれいで自然に恵まれているということなのだそうです。

もうすぐ秋になり新米が届きます。それは私たち家族にとって特別なお米です。私と妹は剣道をしています。けい古の時、試合の時、おじいさんのお米で作ったおにぎりを食べるとパワーの源になり、苦しくても力が出るまほうのおにぎりです。私の家のおばあさんは病気で手足が不自由になり、前の様に一緒に群馬へ行くことができません。でもおじいさんの作ったお米が届くとおじいさんに電話をかけて笑って話をしています。楽しい思い出がよみがえるそうです。お父さんとお母さんは宮城と群馬二つのふるさとがあるんだと、それは幸せなことだと話してくれます。

私とおじいさんは離れて暮らしていますが、おじいさんのお米が遠い宮城と群馬をつなげてくれているみたいだなと思います。おじいさんが作ってくれたお米を食べると、会えなくても、毎日田んぼに行って苗のお世話をしているおじいさんの姿がうかんできます。私はこれからもおいしいごはんを一粒も残さずに大切に食べたいと思います。そして大きくなって、もっとおじいさんのお手伝いができるようになりたいです。